

2022/7/25-2

(うと Q 世話し All started from settling a fire on our side 全ては火を味方につけた事から始まった) 書庫版



現代の富の元である生産（又は生産財）と貨幣（信用概念又は信用取引）はもうあったのでしょうか？

生産は中学の教科書によれば我が国では弥生時代に大陸から「稲作」が伝来し、農耕生活（＝定住化と狩猟と違って偶然によらない計画的生産と蓄積）が始まった様なので、生産はまだであった様な気がします。弥生時代は可成り後期なので。

又貨幣についてはそれ迄の物々交換が成り立ちにくい、例えば遠方との取引の開始等の条件がないと代替取引（信用概念、信用取引）の発想が生まれないでしょうから乗馬や船等の長距離移動手段の獲得前にはなかったと思われます。

1 万年前に関する資料には乗馬や船の痕跡は載っていない様です。

となれば他に何が？

で、前回の自分の記事で添付のイラストに使っておきながらすっかり見落としていたものがありました。

「火」です。

何故見落としていたかと申しますと火は人工物（道具）ではないという思い込みがあったからです。なので、無意識に除外してしまった。

しかし、よくよく考えてみれば「本来最も生き物が恐れる火というものを道具として味方に引き入れる」というのは、是はもう立派な発明です。

まず、夜に火を焚いておけば火を恐れる獣に襲われる事は滅多になくなります。又火を使って炙り焼きにするなり焚火にくべて蒸し焼きにするなりする事を覚えれば味もよくなり日持ちもよくなり衛生にもいい事が分かって生活レベルと範囲が大幅に伸びたのではないのでしょうか。

権力の元となる武器や生産の飛躍的向上の元となる農具も鉄の精製を可能にした「火を味方につける」という発明がなければ全く実現しなかったでしょう。

因みに肥料のない時代の焼き畑農業も重すぎる石貨に代わる金属貨も生まれていなかった

でしょう。

恐らく火は人類の生活や価値観に激変を齎したのではないのでしょうか。

security (安全、防御)、農業 (食料、生産)、武器 (軍事、権力)、貨幣 (信用という、富)、快適 (暖、調理、衛生) これらは火がなければ普及、発展し得なかったものです。そして火を energy (熱、熱源、熱量) として勘定すれば現在の温暖化の大元として既に一万年前から仕込まれていた訳です。

そして又国民レベルで現在最も重用されるのが最後の「快適」

処がその「過度の快適追及」が図らずも energy の増大の大きな要因となっている。

霊長類の一部は木の葉を噛んでスポンジとして使う様です。気の葉のスポンジは道具です。

しかし人類以外の生物で火を道具として使う生き物は皆無です。そこが人類と他の生物を根本的に分けた分岐点。

恐怖を他の生物同様には終わらせず「これを使えないか？」という逆転の発想をし得たのが人目人科だけだった。

しかし火の活用は後代 (現代) において地球からお叱りを受ける最大原因にもなってしまった。

先述の相反問題は相当に根深いものである事が分かって参りました。